

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第1回上尾市総合教育会議	
開 催 日 時	令和4年11月22日（火） 午前10時30分～11時20分	
開 催 場 所	市役所本庁舎3階 庁議室	
議長(委員長・会長)氏名	畠山 稔（市長）	
出席者(委員)氏名	教育長 西倉 剛 教育長職務代理者 大塚 崇行 教育委員 内田 みどり 教育委員 小池 智司 教育委員 谷島 大 教育委員 矢野 誠二	
欠席者(委員)氏名		
事務局(庶務担当)	市長政策室長 柳下 貴之、同次長兼秘書政策課長 榮 幸輝 秘書政策課主査 大野 貴弘、同主任 水城 祥冴	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 英語教育について (2) 中学校部活動について	報告・説明と質疑応答 報告・説明と質疑応答
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 5名
会 議 資 料	別添のとおり	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">令和5年1月18日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 _____ 畠山 稔 (※原本は自署)</p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____</p> <p style="text-align: center;">(議長が欠けたときのみ)</p>		

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
司会（市長政策室長）	<p>皆様、こんにちは。            本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。            只今から、令和4年度 第1回上尾市総合教育会議を開会させていただきます。私は本日の進行を務めさせていただきます、市長政策室長の柳下と申します。どうぞよろしく願いいたします。            それでは初めに、本会議の設置者であります畠山市長から挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>教育委員の皆様には、日々上尾の教育の発展のためにご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。            当初7月の開催を予定しておりましたが、延期とさせていただき、今回、西倉教育長、矢野委員さんが新たに加わって今年度初めての総合教育会議となります。            また、本日は定例の教育委員会が開催されたと伺っております。教育委員の皆様におかれましては、本市の教育行政の推進にお力添えを賜りますよう、よろしく願い申し上げます。            さて、本日の議題は、英語教育と中学校部活動についてということで、いずれも教育活動における重要な課題をテーマとしております。            英語教育につきましては、私も今年度は上平小学校の授業の様子を拝見させていただくとともに、文化センターで行われた中学校の英語弁論大会にも参加させていただきました。            上尾で育った子どもたちが外国人とスムーズにコミュニケーションが取れるようになってもらいたい、そんな思いから、市長就任当初から英語教育については、力を入れて取り組んでいるところです。            また、中学校部活動につきましては、国の議論として地域移行という大きな方向性が見えてまいりました。9月議会においても複数の議員さんから一般質問があったとおり、市民の皆様の関心も高い案件でございます。            本日は、国の動向や現在の市の検討状況について教育委員会事務局から報告をしていただいた上で、教育委員の皆様との情報共有を図り、今後の取り組みに生かしてまいりたいと考えております。忌憚のない意見交換ができればと考えておりますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。            私からは以上でございます。</p>
司会（市長政策室長）	<p>ありがとうございました。            ただいま市長の挨拶にもありましたとおり、今回が今年度第1回目の会議となります。今年度は、西倉剛教育長、矢野誠二委員が新たにご就任されています。            本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>それでは、早速ですが、要綱の定めにより議事を進行させていただきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。</p> <p>初めに、本会議の公開についてでございますが、本会議は原則公開となっております。本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>5名いらっしゃいます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>只今から傍聴者に入場していただきます。事務局は傍聴者を入場させてください。</p> <p>傍聴者に傍聴上の注意を申し上げます。先ほどお配りしました傍聴に当たっての注意事項をよくお読みいただき、遵守するようお願いいたします。注意事項に反することがあった場合には、退場していただく場合がありますのでご了承願います。</p> <p>それでは、議題1「英語教育について」でございます。上尾市では、小学校1年生から英語活動を取り入れるなど、英語教育に力を入れているところですが、はじめに、本市の英語教育の取組状況について学校教育部長から説明をお願いします。</p>
<p>教委事務局(学校教育部長)</p>	<p>それでは本市における英語教育についてご説明いたします。お手元の資料をご覧ください。</p> <p>本市では、進んで英語を話せる上尾の子を育てることを目指して、世界にはばたく かがやキッズ 英語力向上プランを推進しております。そして、その具現化のため、さまざまな取組を行っております。</p> <p>その中でも大きな柱の取組として、2つございます。</p> <p>1つ目は、文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、小学校1、2年生において英語活動の時間を独自に設置しております。これにより、小学校1年生から中学校3年生までの各段階に応じた英語の資質・能力を育成していくことができ、9年間を見通した英語教育の基盤となっております。</p> <p>2つ目は、ネイティブスピーカーであるALTを市内小中学校全校に週5日配置して、担任や教科担当の教諭とチーム・ティーチングを実施しております。これにより、特に小学校においては、すべての英語の授業において、担任とALTとのチーム・ティーチング実施することができるほか、休み時間等に児童とALTが自由に会話をするイングリッシュトークを実施し、楽しく英語を話す体験が充実してきております。</p> <p>また、小中学校においては、教科の時間以外の給食や清掃、委員会等の活動にもALTが積極的に入るなど、児童生徒が日常的に生きた英語に触れ、学ぶ機会が多く提供されております。</p> <p>この他の取組として、中学校英語弁論大会やオーストラリアのロッキンジャー高校等、海外学校とのオンライン交流などを実施しております。なお、今年度の上尾市中学校英語弁論大会において、最優秀賞を受賞した上平中学校2年の高橋文花さんが、県大会において第3位に入賞し、第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場するという快挙</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>を成し遂げました。今後も児童生徒の英語力向上のための取組を充実させ、活用する機会を設けるなどの取組をしてまいります。</p> <p>上尾市の取組状況について、ひと通り説明がありました。それでは、これにつきまして意見交換を始めたいと思います。</p> <p>先ほど市長の挨拶にもありましたとおり、今年度は上平小学校の授業や英語弁論大会の様子など、市長も英語教育の取り組み状況を実際にご覧になっていますが、どのように感じていますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>英語教育については、私も1期目の市長公約として英語教育の推進を掲げており、市長就任以降、力を入れて取り組んでいます。</p> <p>というのも、未来を担う子どもたちが世界にはばたく際のコミュニケーション手段として英語力、特に英会話は必要不可欠と考えているからです。</p> <p>日本の教育では長いこと英語を学ぶ機会がありますが、外国の方と不便なくコミュニケーションをとれる方がどれだけいるのでしょうか。</p> <p>会議の冒頭でも申し上げたとおり、7月には上平小学校の英語学習の授業の様子を見させていただき、9月には文化センターで開催された中学生の英語弁論大会の様子も拝見いたしました。子どもたちが早い段階から英語や外国の文化に触れることで、外国の方と躊躇なくコミュニケーションをとれるようになる環境を整えてあげられたらと考えています。</p> <p>また、今年度は子どもたちの外国語教育の第一人者で国の審議会委員などとしてもご活躍されている直山先生、視学官ともお話をさせていただきました。直山先生からは、小学校1年生からALTを活用した9年間の上尾市の取り組みについて、大変素晴らしい取り組みとの評価をいただいています。教育という性質上、成果が見えづらい部分ではありますが、早い段階からの学年に応じた、継続的な取り組みが重要だと感じているところです。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>市長からは、外国の方と不便なくコミュニケーションをとれる英語力、それから継続的な取り組みというお話がありました。</p> <p>教育委員の皆さんのご意見を伺えればと思います。谷島委員どうぞ。</p>
<p>谷島委員</p>	<p>私も教育委員として研究発表など学校現場で特に低学年などの授業を見て、目を見張るものがあり、やはりALTの配置が大きいと感じています。私が子どもの頃は英語は中学校になってから勉強するものというイメージでしたが、今は慣れ親しんで聞く話すといったことが自然と小さい時から培われていると思います。今後さらにそういう場を増やす機会を作っていければ、かつて日本人にあった英語アレルギーのようなものが取り払われる気がしています。</p> <p>先ほど紹介のありました中学校英語弁論大会には息子も数年前に参加させていただいたことがあります。当時3年生だけで300人いた中学校で参加に手を挙げた生徒は10人程度だったということです。英語に慣れ親しむあるいは英会話というもののレベルを上げてい</p>

<p>内田委員</p>	<p>くためにはもっと裾野を広げて、英語弁論大会に参加する生徒が増えてくればよいと感じています。</p> <p>以前、前橋で不登校問題についての分科会に参加させていただいて、さいたま市の教育長さんから小中一貫教育はもうすでに皆様の地域でも中学校区単位でできるのではないかという話があり心にひっかかっていました。この英語教育についても、中学校区単位で小中一貫教育の一環として9年間を教育として考えていけないかと思ったところです。9年間を見通した教育としてポイントに挙げられており、これが小中学校一貫の取り組みと考えれば小学校と中学校の交流ができ、長い目で考えられるのではないかと感じています。</p> <p>私が中学校のPTA活動に参加していた際、春のイベントがあったときには、ALTの先生にトリック・オア・トリートと言えば飴をもらえるというイベントをやったことがあります。普段英語を口にしない子どもたちがその飴を1つもらうためにその言葉を言いたくてALTの先生に群がる光景を見ました。先生に発音が違うと言われるとまた後ろに並び直していましたし、何か楽しいことがあれば口にしてもらえると実感しました。そういう機会があれば子どもたちはどんどん英語に関わっていけるので、何か小学校のうちから楽しい取り組みを交えて英語教育ができたらと思います。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。他にどうでしょうか。 大塚委員をお願いします。</p>
<p>大塚教育長職務 代理者</p>	<p>まずは各小中学校にALTを派遣していただいていることに感謝申し上げます。これにより子どもたち、特に低学年で楽しく学ぶことを第一に感じられているかと思います。先ほど谷島委員からもあったとおり、私どもが子どもの頃は文法や単語などどうしてもハードルが高いという所がありましたがALTの存在によってそのハードルが低くなるころは多々あると思っています。今後もそういった人員の配置を厚くお願いしたいと思っています。また、弁論大会も活動の場を作るということは生徒たちの成長にも大変つながるというものですのでこちらも今後とも確保していただきたいと思っています。</p> <p>また、上尾としてロッキャー高校との交流は大いに活かしていただいて生の英語に触れられる大事なところがありますので、今はコロナで実際の交流事業もできていませんが、是非この先は交流の再開を検討していただきたいと思っています。</p>
<p>小池委員</p>	<p>私も他の委員さんと同様、小学校1年生から英語を聞いたり話したりと慣れ親しんでいくことはその後の英語に対する抵抗が少なくなってくると思っています。自分が中学生だった時にも中学校に入って初めて英語を習い、そのあと外国の方と面識した時に話せるかという話せない、聞いても分からないということがありました。今はグローバルで世界に飛び出していくという意味で、幼いうちからALTの先生を通し英語に慣れ親しんでいくことで英語に対する抵抗がなくなり</p>

	<p>自然に聞いて自然に話せるようになってくるのが一番良いのではないかと思います。上尾市独自の取り組みということですので先進的に他市に先駆けてやっていただいています、これからも続けていただきたいと思います。ALTの先生も各校に必ず1人は配置していただいています、可能であれば1校に1人から2人などとなってくれば子どもたちが更に英語に関わる時間が増えるのではないかと思いますので、これを発展させ、上尾に来れば英語を話せるようになりますよとなれば市のアピールにもなるかと思えます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。桶川市の教育現場を経験されている矢野委員さんはいかがでしょう。</p>
<p>矢野委員</p>	<p>英語教育と一言言っても皆さんが話題にされているのは英会話教育のことかと思えます。自分たちの子どもの頃にはALTはいませんし逆に外国の方を見たら驚くくらいで、見かけることも少なかった時代でした。今の授業を見ていると例えば中学校の英語授業ではほとんど日本語を使わないような英会話授業もされていました。自分が学生の頃は単語と文法しかやっていなかったのを読めても話せないという方が多いのではないのでしょうか。今は授業の内容も変わってきて子どもたちも英会話に怖気づかずに取り組めるようになってきています。これからの子どもたちに期待をしています。</p> <p>簡単に言うとALTが週5日ほぼ毎日顔を合わせる機会を用意しているということが大事かと思えます。英会話の上達には触れる機会を増やすということ、必要性がなければ人間はなかなか上達しません。</p> <p>余談になりますが30年以上も前に仕事で派遣事業としてアメリカに行ったことがあります。夜はホストの家で過ごし、トイレを借りるにも英語で言わないと伝わらない、そういう必要性、そういう場におかれれば人間は上達するのだと思えます。是非とも上尾市でも機会の提供をいろいろな形で考えていただけるとよいと思えます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。いただいた資料の中で教員研修というのがあります。これはALTの先生以外の一般の先生たちがやられている研修のようですが、これについて説明をお願いしますでしょうか。</p>
<p>教委事務局(指導課長)</p>	<p>資料をご覧ください。左側が外国語指導力向上研修会ということで、こちらは全教員を対象とした各校で実施している研修になります。年間2回実施しており、ALTやALTを派遣している会社にもご協力をいただきながら実施をしているところです。</p> <p>右側につきましては外国語科研修会ということで小中学校の外国語を担当している小学校においてはチーフとして担当している先生を中心に夏季休業中に小中別で年に1回集まり、こちらもALTを派遣会社にもご協力をいただきながら、ALTを交え研修を実施しているものでございます。</p>
<p>教委事務局(学校)</p>	<p>教員は教員養成系の大学を出ていますが、自分が学生だった時に、</p>

<p>教育部長)</p>	<p>養成課程において英語を学ぶということはなかったわけです。ですからそういったところをサポートするためにこういうような研修会を実施しています。</p>
<p>司会 (市長政策室長)</p>	<p>ありがとうございます。各委員さんから本市の英語教育の取り組みについて、様々なご意見がありました。市長これを聞いていかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>皆さんがおっしゃる通りだと思います。我々が若い時は単語の発音の仕方がどうだとか何度も繰り返したのを記憶しています。また試験があるので試験勉強をやってきました。ただ先ほど話があったとお話しする機会がなく、地方だと外国の方も見かけることもなく、そういった環境にないというのが昔でした。</p> <p>今はグローバル化で共通言語として最低でも英語を覚えて会話ができてという水準になればということで、特例校として小学校1年生から中学校3年生までALTを入れ、内容もイングリッシュトークやロッキヤーとの交流などいろいろと変わってきています。</p> <p>私も学校訪問した時に以前の感覚でいたのでだいぶ変わっているという印象を受け将来性を感じました。また、先ほどの飴の話ではないですが低学年の方が抵抗なく入り込んで馴染んでいます。高学年やここにいる我々世代となるととっつきにくいという感じがあるかと思っています。そういうことから早い時期から取り組むことが大事だと感じています。</p> <p>直山先生の話を知ると、単語は教えるのではなく環境において自然と耳に入れる。子どもの頃に言葉を覚えるのと同じで外国の言葉を耳に入れることがよいと仰っています。だいぶ変わっていることは皆さんもご存じの通りです。あとはこのままでよいのかということを考えるのがこれからの問題だと思います。</p> <p>先日、上平中学校の高橋さんが弁論大会で県3位になり来られた際に、いろいろな話をする中で、英語で会話をする機会がないですねということを言っていました。中学になると試験で忙しくなるので益々会話をする機会がないから会話ができないということで、自分たちは基礎を覚えてきているのでイングリッシュ・フェスティバルをやって話をする環境を作っていただきたい。一緒に会話ができるフェスティバルあるいはサークルを作っていただけるとありがたいという話をいただきました。委員の皆様と考えていることは同じだと思います。</p> <p>英語を覚えたけど会話をする機会がないので、それをどうやって子どもたちに作っていくかということを考えなければなりません。高橋さんの話を聞いてそれがヒントになるのではないかと私も共鳴することがありました。上尾市にすれば英語が話せるようになる街と仰っていただいたとおりになればよいと思います。</p> <p>これまで英語教育に力を入れ、教育委員会ではいろいろと取り組んでいただいているのですが、教育委員の皆さんのお話を聞いて、改めて同じ方向を向いていただいていることを実感いたしました。今後は、いただいたご意見を踏まえながら、より充実したものとしていきたい</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>と思います。加えて、直山先生に素晴らしいと評価をいただいている取り組みですので、これまで以上に、外に向けたアピールも考えていかなければと思っております。</p> <p>委員の皆さまからは、ALTが英語アレルギーのハードルを下げるですとか、市長からは、イングリッシュ・フェスティバルなどの話す機会について、また、取り組みのアピールについてお話しがありました。現在の取り組みを継続的に実施するとともに、さらなる充実、また、今後は成果の見せ方についても検討をお願いしていきたいと思っております。</p> <p>他に無いようでしたら、次の議題に移りたいと思います。よろしいでしょうか。それでは議題2「中学校の部活動について」でございます。</p> <p>中学校の部活動に関しましては、6月にスポーツ庁、8月には文化庁がそれぞれ設置した有識者会議において部活動の地域移行に関する検討会議として提言を取りまとめています。つい先日には、国が部活動ガイドラインの改定案を公表し、意見募集を始めています。</p> <p>来年度以降、各自治体においても対応が求められることから、現時点で把握している提言の内容ですとかその課題、取組予定などについて情報を共有しまして、今後につなげていければということで今回の議題としています。</p> <p>それでは、学校教育部長から説明をお願いします。</p>
<p>教委事務局(学校教育部長)</p>	<p>それでは次に中学校の部活動について、特に休日部活動の地域移行についてご説明申し上げます。この件については、資料にありますとおり、去る6月に運動部活動についてはスポーツ庁から提言がなされました。また、次の資料のとおり、文化部の活動においても8月に文化庁から部活動の地域移行に関する提言が出されました。</p> <p>その方向性としましては4点ございます。1つ目、令和5年度から3年間をかけて休日の運動部活動の段階的な地域移行を目標としていくこと。2つ目、平日の部活動の地域移行もできるところから取り組むこと。3つ目、地域における、スポーツ・文化活動の機会の確保や活動の充実。4つ目、地域のスポーツ・文化団体等と学校との連携・協働の推進、この4点があげられています。</p> <p>これを受けまして、現在本市では、関係課及び中体連関係役員で組織する会議を開催し、課題・問題の整理と方策、来年度からの事業の検討をしている所でございます。</p> <p>また、これに先がけまして、7月から8月の期間に教職員を対象として、部活動の在り方についてのアンケート調査を行い、254名の先生方にご回答いただきました。もう一つの資料はその結果の概要でございますので、そちらをご覧ください。</p> <p>まずは、部活動について、先生方が教育的意義を感じているかという問いについては、82.3%が肯定的な回答をしておりますが、次の質問で現状の部活動には課題があるという認識をしている先生方が99.6%おります。その具体的内容として特に多いものが、「教員に</p>



	<p>とって負担である」、「専門的指導ができない」、「適任の人材が足りない」、「保護者対応」となっております。次のページには実際に部活動の顧問としての負担・ストレスを感じているかという問いについては、78%が「感じる、やや感じる」と答えています。次に、今後の部活動の地域移行について賛意を示しているのが、58.7%ですが、「どちらでもない」という先生方が約30%います。これは、「このままで良いのか」あるいは「今後この方向で良いのか」という迷いがあるのか、ということが考えられます。最後に、部活動が今後地域移行となった場合に、兼職・兼業をするなりして指導者となることを希望するかという問いに対して「希望する、どちらかという希望する」と回答した先生は29.9%ほどしかおりません。</p> <p>概要としては以上でございますが、今回の調査を通じて、教員は部活動に対して大きな意義を感じていながらも、負担が大きいということも背中合わせで存在しているということや、地域移行に当たっての地域・教員を含めた指導者の確保についての課題などが、改めて明確となりました。今後は本教員アンケート結果をその際の基礎資料の一つとして活用しつつ、準備を進め、来年度は、関係スポーツ・文化団体とも連携した地域移行推進協議会を立ち上げて、部活動が生徒にとっての成長の場であることも踏まえながら、今後のよりよい休日の部活動の段階的・地域移行を進めて参りたいと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。ひと通り説明をいただきました。提言の内容としまして、休日の部活動から段階的に地域移行を目指すこと、令和5年度から3年かけて移行することなどといった改革の方向性について説明がありました。また、今回は教育委員会で実施した教員に対するアンケート結果の報告もありました。</p> <p>委員の皆さまにおかれては、教育現場やPTA、保護者の立場や地域活動など様々な形で関わりを持たれた経験もあるかと思えます。それでは、意見交換をお願いしたいと思います。</p>
<p>矢野委員</p>	<p>先ほど定例会でも意見として言わせていただきましたが、今後、移行に合わせて課題が噴出してくると思っています。完全移行までには長い時間がかかるのだろうと思っています。市レベルでどこまで進められるのかという心配もあります。こういう形で進めるのだといったイメージができない状況です。手探りで移行過程を考えるしかないと思います。これまで学校教育の一環として長年やってきたもので、アンケート結果にもあるように教育としての意義があるとしてこれまでやってきました。これを完全に地域に移行した場合にそれは学校教育ではないので子どもたちへの影響がどのように出るのかということへの心配もあります。果たして部活動の加入率が大幅に減ることも予想されます。まして活動場所が学校から離れた場合には送迎の問題や経済的なものも含め保護者の負担もあり、今以上に文化的活動や運動的活動から遠ざかってしまうのではないかという心配があります。</p>

大塚委員	<p>部活動の地域移行に関しては教員の働き方改革にもつながる大きな問題だと考えています。教員の時間外労働は大変に大きな課題で優秀な方たちが教員を目指さなくなるのではないかというようなことも言われていますので、働き方改革に直結する部活動の地域移行は大変大きな問題だと思っています。とはいえ具体的な中身がイメージできないということがあり、市内11校で地域それぞれ違いますが、地域それぞれにどのように人を配置するのか、どのような方が指導員として相応しいのかなどが方向性として見えないというところがあります。</p> <p>教育委員会の中での報告を聞きますと国や県の方針を伺ってから決めていくと聞いていますが、そうではなくて上尾は上尾としての方針を考えた中で、指導していただける方も地元の中からなどといったことも考えていかなければならないと思います。いまの上尾の環境においてどういったことができるのかを上尾として考える必要があるかと思えます。県から国からではなく、令和5年度から開始するということですのでいまから取り組んで進めるべき内容かと思えますのでよろしく願いいたします。</p>
内田委員	<p>私も先生方のアンケートを拝見して先生方の迷う所もあるように私も他の委員さんと同じように実際の形が見えていないというのがあります。スポーツ団体ですとか指導者等を見つけられるのか、その方たちにお願ひするのに財源はどのようになっているのかが分かっていません。例えば小学生の時間外保育では学童保育がありますが、そちらは保護者の方からいくらかお金をいただいてNPO法人という組織を作っています。そういった形で部活動のための組織のようなものを作ってそこから派遣をしていくようなシステムを作っていないと運営として難しいのではないかと考えています。</p> <p>部活動に入る時に活動費として確か年間1万円だとかを払っていたかと思いますがそれだけでは全然足りないと思います。ではその財源はどうするのか組織を作っていないと成り立たないのではないのでしょうか。スポーツクラブにお願ひするにしてもスポーツクラブはそちらで運営している訳ですがそこからの人材ということも考えなければいけないのかと思えます。</p>
司会（市長政策室長）	<p>いま資料としていただいているのはスポーツ庁と文化庁の資料ですけども、これとは別にまた経産省の方では企業が成り立つのかどうかという、別のお金の面から調査しており、みんな赤字になってしまうといった、そんな報告書も出たりしていますので、確かにその負担の面は相当あるようです。</p>
谷島委員	<p>他の委員さんからもお話のとおり私もイメージがつかめないところもありますけれども、今回のアンケート調査の結果を見ても、部活動の意義はあると思いつつも負担は大きい、働き方改革は進めなければならぬという中で、先ほど矢野委員さんからも学校教育から切り離してしまうのかという話もありましたけれども、外部の指導者を入れてということを進めていったときに教員の先生が全く関与しなくな</p>

<p>小池委員</p>	<p>るのかどうかというのは大きな問題だと思います。先ほどの説明では地域に移行する中でも活動に参加したいという先生も3割いらっしゃるといことで、個人的には学校の先生も参加できる形で仕組み作りができるとういのではないかと思います。</p> <p>私も他の委員さんと同様これからどのようになっていくのかというイメージがわいていませんが、例えばアメリカのように学校とその後の部活動は別で、学校が終わると生徒はみんな帰って、部活に行きたい人が部活に行くという風になっていってしまうのではないかと思います。そうすると本当に学校の教育と部活動はかけ離れ、やりたい子たちだけが参加して、今までは先生が見てくれていましたので無償でという部分も、企業や団体をお願いするとなると家庭に対しての負担ということもでてくるのが考えられます。そうした場合、家庭によって負担することができないとなると必然的に部活動に関わることができなくなってしまうこととなりますが、果たしてそれが良いのかという懸念もあります。</p> <p>学校と部活動がかけ離れることにより教育的な指導の機会が減ることも懸念するところで、いろいろな問題があると思っており、移行期間をかけて1つずつ解決していくことができるのかということについて疑問を持っています。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>少しお伺いしただけでも非常に多くの課題が挙げられましたが、現在の部活動や指導員の状況について少しご報告をいただけますでしょうか。</p>
<p>教委事務局(指導課長)</p>	<p>はい。それではまず部活動の現状でございます。中学校は11校ありますが学校の規模により部活の数も様々でございます。多いところでは大石中には20の部活動がございます。一番少ないところでは大石南中学校で10ということで、現状においても学校の規模によって選択肢に差が生じています。トータルでは市内で168の部活動がございまして、そこに複数の顧問が配置されます。そうしたときに学校の規模により複数の顧問を配置できないもしくは専門的指導ができないといったときに上尾市では中学校部活動指導員を配置しておりまして、今年度は44名の方が市内11校で活動しています。学校によっては多いところで7名の方が活動しています。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。現在44名の方が部活動指導員として配置されているということです。他に委員さんの方からご意見等ありますでしょうか。内田委員お願いします。</p>
<p>内田委員</p>	<p>部活動が168あるということでした。となると顧問と副顧問の先生が2人から3人となれば部活動数の2倍3倍の教職員の方が必要となります。44名の方が外部指導員として配置されてもそこに先生方がついていただいています。そうしますと先生方が全く関わらないとすれば外部指導員の方が何人必要になるのか。人材を確保しようとす</p>

<p>市長</p>	<p>れば当然財源の問題も生じてきます。これらはやはり大きな課題だと思います。</p> <p>完全移行まで時間はありますがやらなければならないことも決まっている。その中でそれぞれ課題がある。そういった中において上尾市はおっしゃられたとおり、国県を待つのではなく、独自のものをやっていったらよいのではないかと、これも一案だと思います。</p> <p>それをするには人材をどうするのか、学童のような組織を作って指導員を派遣できるような体制にするのか、となればスポーツ協会、少年団などにそれだけの方を派遣していただけるのか、事故があった場合の対応や費用の問題もあります。</p> <p>今は先生にお願いしてあるいは外部指導員を配置してやっていただいているものが大きく変わって、教育と指導の問題を始めいろいろな問題が生じてきます。ただ、忘れてはいけないのは、中学生という子どもたちがスポーツや文化を通じて学ばなければならない一番大事な時期なので中途半端なまま卒業されてもよろしくないと思います。早く動かなければいけません、国の方針が示されたときに市が考えていたものと違ったという展開も想定されます。私も皆さんと同様に課題はあるけれども何とかしなければならないという思いですので、そのためには教育委員会の皆様と一緒にやっていかなければならないと思っています。</p>
<p>内田委員</p>	<p>1つよろしいでしょうか。部活動の取り組みは受験の際の内申にも関わっているという現状もあります。その点も重く考える必要がありますので、そうしたことも踏まえて検討いただけたらと思います。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>教職員のアンケートで部活動指導員として兼職を希望すると仰っていただいている方が約30%ということですが、教育長この数は多いと受け取ったらよいのでしょうか、それとも少ないと受け取るべきでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>私の率直な意見としては少ないと思いました。これくらいの方々が負担に感じているのだなと思いましたが、先生の中には地域移行して地域でやっていただけるのであれば、時間がなくて専門的なことをできない、時間をとられてしまうといった様々な課題がある中でそういう結果が出たものと思います。</p> <p>ただ、皆様方と同じように先生方もアンケートをとった時点で今後どのようにしていくのが全く分からない暗中模索の中での意見ということもあるかと思っています。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございます。他に委員さんからございますか。市長、皆様からたくさん意見をいただきましたがこれらを踏まえましていかがでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>今回の提言は、全国的に児童生徒数の減少が見込まれる中でも持続</p>

	<p>可能な部活動と先生方の働き方改革に対応するため、検討が行われているものと認識しています。とはいえ、国の有識者会議の提言や委員の皆さまのご意見にもあったとおり、提言内容を実現するには、私も数多くの課題があると思っています。とりわけ、運動部・文化部ともに地域の受け皿、人材の確保が大きな課題と感じています。質の高い指導者をどのように確保するのか、また、その際のコスト・財源を誰がどのように負担し賄っていくのか、このあたりは非常に大きな課題があると考えています。</p> <p>先ほどの教員アンケートでは、大半の先生が部活動に課題があると感じていることや、地域移行後も兼業として引き続き部活動に携わることを希望するという回答は約3割ということでした。受け皿に関しては、他自治体のモデルケースでもいろいろな手法が検討されています。ただ、解決しなければならない課題は数多くありますが、一生懸命、部活動に取り組む子どもたちに、どういう影響があるかということが一番に考える必要があると思います。中学校生活という貴重な時期に、部活動をとおして仲間と一緒に1つのことに熱中することで、心や体の成長にどれだけのプラスの効果をもたらしているか。今回の国の地域移行の議論を契機として、子どもたちのための、よりよい部活動へとつなげていきたいと思っています。今後も、国の動向を注視しながら、教育委員会の皆さまと連携して対応が必要となりますので、引き続きご協力をお願いします。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>現段階では今回の提言には多くの課題があることについて皆様と情報を共有させていただきました。引き続き教育委員会事務局におかれましては情報収集に努めていただきまして、次年度以降の予算計上や様々な事業展開に向けて必要な対応をお願いしたいと思っています。</p> <p>続きまして、議題3「その他」として次回の会議について事務局からお願いいたします。</p>
<p>事務局（市長政策室次長兼秘書政策課長）</p>	<p>はい。次回の会議につきましては年明けを予定しておりますが、定例教育委員会にあわせて開催したいと考えております。また、時期が近くなりましたらご連絡申し上げます。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>そのほか何かございますでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>ただいま、事務局から次回の日程についてご案内させていただきました。今回は、英語教育と中学校部活動についてをテーマに意見交換を行い、いずれも教育活動における重要な議題の1つであり、有意義な意見交換ができたと感じております。</p> <p>一方で、先月末には昨年度の小中学校の不登校児童生徒数が24万人を超えたといった報道もありました。いじめの問題に限らず、コロナ禍で学校活動をはじめとした様々な活動が制限され、人と人との関りの機会が減っている影響もあろうかと思っています。自殺や自殺未遂との関連も言われています。今回は、そういったコロナ禍における影響に</p>

<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ついて意見交換ができないかと現時点では考えているところがございます。</p> <p>市長からコロナ禍における学校生活ですとか児童生徒への影響について次回以降のテーマとして検討したいというご発言がありました。これについては日程とあわせまして調整させていただき、決まりましたらご案内させていただきます。</p> <p>他によろしいでしょうか。特にないようですので議事の方は全て終了とさせていただきます。皆様のご協力ありがとうございました。</p> <p>それでは閉会にあたりまして教育委員会を代表いたしまして西倉教育長からご挨拶をいただきたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>本日は喫緊の課題となっている英語教育あるいは部活動について話し合いをもっていただきました。現状、先ほどもありましたように本市ではALTが36名配置されております。子どもたちは校内ではALTとネイティブと普通に会話ができているという状況までできていますが、先ほど来皆様から出ているとおり学校から出てしまうと中々それがうまくできていない。これまでも中学校の修学旅行のときに海外からいらしている方と会話をする機会もあったのですが、いまは小学校まで広がってきていますので、小学生がそういうことにトライしていくあるいは中学校で更にそういった機会を増やしていくことができると思います。英語力を直ぐに向上することはできないかもしれませんが着実な実践を踏まえて更に上尾の子どもたちが英語を普通にどこでも自信を持って話せるようにしていきたいと思います。</p> <p>また部活動の地域移行については先ほどからあったとおり教員の働き方改革などを考えますと喫緊の課題です。中学校における部活動の果たしてきた意義を考えると非常に大きな課題でありこれをどううまくやっていくのが大変なところかと思えます。だからこそ教育委員会、学校だけでなく、市全体を挙げて取り組んでいかなければならないことかと思えます。その意味で今日のような総合教育会議で議題としてあげていただきお互いに意見交換ができたことは大変有意義であったと思います。今後も私たち教育委員会はできることから迅速にしっかりと取り組んでまいりたいと思いますので、市長をはじめ市長部局の皆さんにはご指導いただきながら共に進めていただければと思います。本日はどうもありがとうございました。</p>
<p>司会（市長政策室長）</p>	<p>ありがとうございました。以上をもちまして令和4年度第2回上尾市総合教育会議を閉会いたします。</p>